教育広報
いるま
第55号
平成24年3月
題字：教育長　村　野　志　朗
編集：教育広報いるま編集委員会
発行：入間市教育委員会学校教育課
電話04−2964−1111(内4145)

『豊かな人間性』の更なる育成に向けて

平成二十三年四月より、小学校では新しい学習指導要領に基づく授業が開始されました。そしてこの四月からは中学校でも全面実施となります。

入間市教育委員会としましては今回の改訂を受け、これまでの理念を継承し、教育基本法改正等も踏まえながら、入間の全ての子どもたちに、「ふるさと入間を愛する心」「学ぶ喜び」「思いやりの心」「健やかな体」が十分に定着していくよう『豊かな人間性』の更なる育成に尽力しております。

また、本市では平成二十一年度より、全ての子どもたちが、夢を持ち自立できるよう支援していく『子ども未来室事業』に力を注いでいます。主な取組は「幼児児童生徒の発達の支援」「異校種間等の円滑な接続の実施」「子育て中の親の支援」です。これにより瞳が輝く入間っ子を育てていきます。

国語の授業づくりの研究
―一時間の授業の充実を目指して―

入間市立豊岡小学校　校長　岡村　光章

「学力向上」を目指すには、言語活動の基本である国語の能力の向上が欠かせません。学習指導要領では、表現力と理解力とを育成することが国語科の基本的目標であると述べられています。

本校では、「国語の授業づくり」に焦点を当て、単元の組み立てや一時間の授業構成を教員がお互いに学び合う研究を行いました。そして、授業を充実させていくことが学力の向上につながっていくことと考え、本研究主題を設定しました。

目指す授業像は次の五点あります。①子どもが自ら参加している②何を学ぶかがはっきりしている③クラスの中で認められている④結果的に「わかった・できた・完成した・続けてやりたい」と思える⑤「楽しいな・おもしろいな」と思える授業です。

成果として、教師の綿密な教材研究により授業のポイントが押さえられ、基礎基本の定着が図られました。入間地区学力調査でも読み取りで成果が現れました。今後も、児童の実態を分析し、つけるべき力を明確にして、更なる学力向上を図っていきます。

確かな学びの力の育成ために
―一人一人の表現力・思考力を伸ばす指導法の研究（国語科）―

入間市立金子小学校　校長　田辺　曉己

本校では、平成二十二、二十三年度、入間市教育委員会・入間市教育研究会、二十三年度、入間地区国語科教育研究会の委嘱を受け、研究を進めてきました。この研究は、以前の「一人一人の読む力を伸ばす指導法の研究」で見えてきた課題をもとに発展させたものです。目指す児童像を「自分の思いや考えを持ち、生き生きと表現する子ども」とし、以下の二点に重点を置き、取り組みました。

一　指導法の工夫

①課題や発問の工夫

「物語文」や「説明文」の読み取りの中で、児童一人一人が自分の考えを持てるような課題作りや思いを表現したくなる発問や流れを工夫しました。

②「語らせる」場面

授業の中で、自分の考えを「語らせる」場面を発達段階に応じて設定しました。

二　日常の言語活動と環境の整備

①「伝える」スキル

学年ごとのスピーチの年間計画表を作り、朝の会などで取り組んでいます。

②語彙（ごい）の充実

一年生から辞書を使っています。関連図書の展示や、学年掲示板での言葉の紹介もしています。

これらの取組をとおして、児童相互の意見の交流が深まるようになりました。今後も子ども達の思いや考えを表現する力をさらに伸ばしていきます。

子どもと教師で作り上げる学級会（特別活動の授業）
―今よりもっとよいクラスにしよう―

入間市立東町小学校　校長　村田　勉

本校では、「児童に確かな学力を身につけさせること」を課題として、学級活動（特に学級会）を中心に研究を進めました。学力の向上を図るには良い人間関係を築き、落ち着いて学習に取り組むことが必要だからです。

本校では、発達段階に応じて、低学年・中学年・高学年それぞれの目指す児童像を設定し、授業実践をとおして研究を深めてきました。

授業実践の二つの柱

①学級会グッズを充実させ、学級会の進め方を校内で統一しました。また、計画係の指導に重点をおき、学級会ノートを活用しました。

②学級をより良くしようとする態度や問題を解決しようとする態度を養うために、自己評価カードや相互評価をもとに活動を見直させました。

1年生の提案場面

研究の三つの成果

①学級会グッズの充実等により、児童が主体的に取り組むようになりました。

②話し合いのスキルをクラブ活動等で活かせるようになりました。

③自己評価が次の活動へとつながるようになりました。

今後も学級会で身に付けたスキルを活かし、より良い人間関係を築くことができる児童を育て、学力の向上を図っていきたいと思います。

確かな学力の向上を目指して
―算数科を中心として―

入間市立高倉小学校　校長　山下　忠夫

本校では、平成二十一年度より、算数科を中心とした学校研究に取り組んでいます。

研究で目指したものは、学習に対して「できた・わかった・おもしろかった」と感じられる児童を育成すること。また、そう感じてもらえる算数授業が全学年・全学級で展開できるようになることです。

そのために本校では、教師の授業力や指導技術、学級経営力を「教える力」、児童の学びを支える基本的な生活習慣や学習規律の定着、基礎的な計算力等を「学ぶ力」と定義し、この二つの力の向上をめざした研究を進めてきました。

「教える力」の研究では、算数の授業の流れを統一し、どの学級でも質の揃った授業が展開できるようにしました。授業は基本的に問題解決学習のパターンとし、児童が意欲的に取り組めるようなストーリー性のある指導計画を工夫しました。板書や児童のノートの書き方も「高小スタイル」を確立し、これによって進級しても同じ形での授業に取り組めるようにしました。

「学ぶ力」の研究では、『親子でチャレンジシリーズ』を継続し、忘れ物をなくすことや、家庭学習を習慣づけること、睡眠や朝食をしっかりとることを家庭と連携して取り組んできました。

今後もこの研究を継続し、工夫改善を重ねていくことで、児童の学力向上を図っていきたいと考えています。

二年間の研究委嘱を終えて
―生徒のアンケート結果より―

入間市立向原中学校　校長　大室　重喜

本校では昨年度と本年度の二年間、入間市教育委員会・入間市教育研究会の委嘱を受けて、「自ら学ぶ、心豊かな生徒の育成を目指して―学ぶ意欲と学ぶ力を伸ばす学習指導法の研究―」という主題で、研究を推進してきました。各教科ごとに仮説を設定し、検証をとおしてわかる授業を推進することが、生徒の学ぶ意欲と学ぶ力の向上につながるととらえ、研究を進めました。

わかる授業の実践を生徒のアンケートから考察してみます。「授業がわかる」生徒は、一回目72％から二回目は75％に上がりました。また、「授業がわからないときに、そのままにしておく」生徒は、21％から20％と、わずかですが減少しました。しかし、そのままにしておく生徒が20％いるという現状は課題です。生徒への課題の内容や提示の仕方、また、個に応じた指導・支援の方法をさらに研究・検討する必要があります。

アンケート全体をとおしての成果としては、生徒の実態を把握し、より効果的な授業実践のための研究ができたことが挙げられます。今後も研究を重ね、生徒の実情を把握した効果的な授業実践を進めて参ります。

幼児理解をとおした魅力ある教育活動の創造
―園児が輝き教師・保護者が輝くあずま幼稚園―

入間市立あずま幼稚園　園長　加藤　孝義

入間市唯一の公立、あずま幼稚園では、市の委嘱を受けてテーマに沿った研究を行っています。「研究の柱」は幼児の望む姿である教育目標の達成です。

『○健康な子○心豊かな子○自立できる子』を育てるため一人一人の良さを育て伸ばす園活動の充実に取り組んでいます。日々の教育活動の中で「あんぜん・あいさつ・あとしまつ」を中心に各関係機関と連携を密にして、国の宝、入間の宝、未来の宝の子ども達の健やかな成長を図っています。

教育委員会には教師の資質向上への支援協力を、保護者の方々には園行事や親学への参加を、地域の方々には幼稚園を見守り「餅つき会」「節分祭」など幼稚園のための支援等をいただいています。

また、入間青年会議所の皆さんには、「親学」を通じての縁により、誕生会ゲストの紹介や行事での防犯活動、「おやじの会」立ち上げの協力等、心強い支援をいただきました。

そして、園児達が「楽しい！」と取り組んでいる活動の中に体育専門員を招いての運動あそびがあります。芝生の園庭で、基礎体力向上と運動の楽しさを実感している子ども達です。

的確に理解し、自分で考え、表現する児童の育成

入間市立扇小学校　校長　関田　惠一

平成二十三、二十四年度と入間市教育委員会並びに入間市教育研究会の研究委嘱を受け国語科の授業改善を目指した校内研究に取り組むことになりました。

研究は、まず児童の実態把握に始まり、埼玉大学教育学部附属小学校の淺井大貴先生のご講演（写真）をいただき、研究の方向性を確かなものとしました。研究主題である「的確に理解し、自分で考え、表現する児童の育成」とは、叙述に即して読み取る力・児童がお互いに考えを出し合いそれを深めていく力・深め合った後に自分の考えをまとめる力を育成することを目的としたものです。夏季休業日を学年や研究部研修の準備期間にあて、二学期からの授業研究へとつなげました。学習指導部・言語環境部・家庭連携部のそれぞれが研究の柱となりました。

学習指導部では指導方法の研究、言語環境部では掲示環境の整備並びに音読や視写等の各種取組、家庭連携部では家庭での学習の在り方についての連携を図りました。

本年度の実践から課題を明確にし、来年度の発表に向けて、今後とも取り組んで参りたいと思います。

共に学び合い心豊かに生きる児童の育成

―豊かな読みを育てる音読指導―

入間市立宮寺小学校　校長　金子　博

本校では、今年度から国語科の研究に取り組んでいます。

音読は、文章内容の理解を助けるだけでなく、気持ちや情景を想像しながら声に出して表現することにより、読み手と聞き手が互いに読みを深め合うことができます。さらには、読み取ったことから自分の思いや考えを表現する朗読へと発展させ、児童の「読む力」の向上につなげたいと考えています。

一年目の本年は、掲示物の工夫による言語環境の整備、児童の意識調査や音読集の作成、そして、職員全体の音読に対する共通理解を図り全員で授業研究に取り組みました。

どの学年でも、声に出して読む活動を多く取り入れ、児童がお互いの音読を聞き合い、思いや考えを伝え合う授業を行っています。回数を重ねることに、想像の世界を広げたり読みを深めたりして、登場人物の気持ちや筆者の思いを考えることができるようになってきました。児童の国語の学習に対する意欲が向上しつつあると感じています。

今後も、音読と読解力のかかわりについて研究を重ね、心豊かな児童を育てていきたいと思います。

共に学び合う子の育成

―話し合いをとおした日本語の美しさに気づく授業の創造―

入間市立西武小学校　校長　古谷　進

研究主題について

主題実現に向け「日本語の美しさ」「話し合い」に視点を置き、授業を展開しました。

①「日本語の美しさ」に気づかせるため、系統表を基にした授業、言葉のもつリズムや語感の体感、言葉の中にある文化的な背景や歴史的要素に気づかせる指導を行いました。

②「話し合い」では読みとったことに自分の考えを加え、話し合いを深める学習に取り組みました。互いの考えを聞き合う中で、それぞれの感じ方に気づいたり、自分の考えを深めたりしました。

豊かな言語活動

本研究をとおして、言語活動を意識した授業の単元開発、日本語コーナーの設置、児童自身の言葉によるまとめを行い、言語活動を充実させました。

各学年の実践

第一学年「昔話」第二学年「季節の言葉」第三、四学年「俳句」第五学年「古文」第六学年「狂言」を題材として授業を実践しました。

研究の成果と課題

（成果）日本語の美しさに気づき、身につけた言葉を話し合いの中で活用したり、自分の言葉でまとめたりする力が高まってきました。

（課題）美しい日本語に気づかせる教材の工夫をさらに進めていきたいと思います。

自他の理解を深め、よりよく生きようとする生徒の育成

入間市立黒須中学校　校長　西澤　泰男

本校では、県中学校進路指導研究会の委嘱を受け、表題の研究を進めてきました。

具体的には、今までの啓発的体験をまとめることと、平成十八年度より取り組んできたライフスキル教育の教育課程上の位置づけを研究し、計画的・意図的に実践することを行ってきました。

啓発的体験学習では、身近な職業調べ、社会体験チャレンジ事業、上級学校訪問と授業体験、高校出前授業などをとおして、「生きること」「学ぶこと」「働くこと」のつながりを実感できるようになってきました。

ライフスキル教育のプログラムは、十～十五才までの多感な思春期の児童生徒を対象にアメリカでカリキュラム化されたものです。生徒が、自尊心の高い、責任感のある、自分も他人も大切にする、健康的な人物として成長するために必要な「生きる力」を育てることを目指しています。これを授業研究を中心に実践し、生徒も楽しくその方法を学んできました。それにより、生徒の相互理解及び教師の生徒理解が深まり、好ましい人間関係を構築することができてきました。

ライフスキルの授業

「自立をはぐくむ」教育活動を目指して

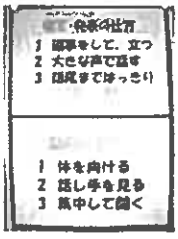
入間市立東金子中学校　校長　星　純一

本校では、「生徒一人一人を大切にし、自立を育む」ための研究をしています。このテーマは、これまで展開されてきた本校の教育活動を検討しながら教育活動の質をいっそう高めることを目指すとともに、教師が教育環境の変化に対応できる職能の向上を図りたいと考えて設定されました。

そのための組織として、本校独自の「八つの当たり前の定着」、「自尊感情の向上」、「表現力の向上」、「特別支援教育の推進」の四つの分科会に職員が分かれて研究しています。

本年度は以下のことに取り組みました。①生徒の実態把握のためのアンケート実施し、その考察を行いました。②分科会ごとに「一日の学校生活の中での指導場面及び指導方法の工夫・改善」を協議し、全職員が同じ歩調で指導に当たっています。③特別支援学級では、通常学級の教科の教師が授業を行い、より専門的な授業の提供と指導技術の向上に努めています。④新たな取組として、「立志式」・黙想や無言清掃に取り組んでいます。

これまでの成果として、掲示物の効果や取組に対する動機付けを明確にしたことにより、生徒の意識が高まっています。何よりも生徒一人一人が生き生きとした学校生活が送れるよう、来年度も継続して取り組んでいきます。



学ぶ意欲の向上

―意欲化の視点を定めた授業で、学ぶ意欲の向上を図る―

入間市立野田中学校　校長　矢野　和彦

本校では今年度から二年間、入間市教育委員会・入間市教育研究会の委嘱を受け「学ぶ意欲の向上」を研究主題として研究を進めています。

研究仮説を「学ぶときの基本姿勢を身につけさせ、授業改善を図れば、生徒の学ぶ意欲は向上する」としました。

学ぶときの基本姿勢を身につけるとは、①人の話をしっかり聞く力
②最後まで粘り強くやりぬく力
③仲間と協力する力
の三つの力を育成することです。

授業では、この三つを基にして、学ぶ者としての姿勢を確実に身につけさせます。

その上で、教師が授業改善をすることで、わかる授業が展開されます。

改善の視点とは、次の五つです。
①「前時の復習」を充実させる
②「なぜ」という疑問を持たせる
③「仲間と教え合う」場面をつくる
④誉められる「評価場面」をつくる
⑤苦しくてもやり遂げさせ、「達成感」を味わわせる

具体的には、全ての教員を三つの部会に分け、それぞれ授業研究会を行いました。その結果、他教科の手法や視点を取り入れることができ、指導の幅を広げることができました。

今後も「学ぶ意欲」を引き出す研究と実践を積み重ね、生徒の学力向上へつなげていきたいと考えています。

豊かな心をはぐくむ菊作り
～地域の方とともに～

黒須小学校

毎年「彩の国教育の日」に合わせ、地域の方や保護者の方に向け学校公開を行っています。この時期、校舎の一階廊下は「菊のさんぽ道」という名称に変わります。廊下の両側は黄色や白、ピンクの大輪の菊で彩られ、子ども達や来校者の目を楽しませてくれます。この菊は、五年生と六年生が地域の「武蔵花の会」の皆さんにご指導をいただきながら、六月から一人一鉢で育ててきたものです。

菊作りは、二十年以上も続いています。夏の暑い日の水やり、台風前日の菊の移動など、学年や学級を越えて世話をしています。植物を育てる喜び、自然を大切にする心、友達を思いやる気持ちや態度が育っています。また、地域の方との絆も深めることができています。

地域に根ざした特色のある教育活動

縦割り活動と保護者の協力

藤沢小学校

本校では、児童集会を異学年の縦割り活動で行っています。高学年の班長を中心に小グループをつくり、さまざまな取組をしています。二学期は、オリエンテーリングを行いました。教師や保護者、そして代表委員会の児童がコーナーごとに課題を出し、それをクリアして点数を競います。交歓給食の時間に作戦を考える等をして交流を深め、当日はどのグループも協力しながら課題に挑戦していました。

また、保護者の協力の一つとして図書ボランティア活動があります。本の貸し出しや図書室の整理、飾り付けなどをしていただいています。さらに、一、二年生に読み聞かせをしてくださっています。子ども達はとても楽しみにしており、真剣にお話を聞いています。

合唱祭「響く声 みんなの心に 想いよ届け」

金子中学校

体育祭が終わり、一息つく間もなく金中合唱祭の取組が始まりました。各クラスの指揮者、伴奏者、パートリーダーを中心に、毎日熱心な練習が行われました。三年生は朝練習にも取り組みました。放課後に各練習場所を見回ると、必ず笑顔で感想を求められました。自信を持って練習している姿を褒めてほしいという気持ちが伝わってきました。合唱祭当日は、金子小学校の児童はもとより、保護者、地域の皆様が、金中生の歌声を聴きに来てくださいました。審査員の先生より「どのクラスも練習の成果を発揮し、学年が進むにつれ豊かな声量でバランスのよい歌声となっていました」と評価していただきました。ステージを包み込むように配置した三百席以上の客席は満席になり、深まりゆく秋の中で、保護者、地域の皆様と心地よい一時を過ごすことができました。

瞳が輝く「入間っ子」の育成を目指して

～ 子ども未来室事業２年目の実践 ～

子ども未来室事業では、「入間市に育つ子どもたちの確かな学びと育ちを実現し、一人一人の自立を総合的に支援していくこと」を目指しています。

子どもの支援１

各段階の接続部分に視点を当て、適度な段差を保ちながらも、子どもたちが大きく戸惑うことなく、新たな環境での生活が始められるように支援します。

幼児と小学生が触れ合って

共同作業の後の遊びタイム。交流を重ねる中で、幼児にとっても小学校がぐっと身近なものになっていきます。

小中合同一斉下校

小学生と中学生が一緒に下校することで、お互いが身近な存在になります。小学生をリードする中学生は頼れる存在です。

子どもの支援２

発達が気なるお子さんには、一人一人の発達に応じた支援をします。集団の中での動きに対しての支援を実施します。

幼児の通級教室「茶おちゃお」の充実

今までの情緒教室に加え、ことばの教室を開室しました。個別にかかわり、発音・発声等の支援をしています。

体育専門員の配置

体育専門員が公立保育所・公立幼稚園を巡回し、幼児に集団行動や運動の基礎を指導し、個に応じたアドバイスを行います。

子育て中の親の支援

子育て中の親の不安や悩みを改善するとともに、子どもへのかかわり方や親のあり方・生き方についての学びを支援します。

親の学習講座ファシリテーター養成講座の実施

講座をスムーズに進行するためのファシリテーター（学習支援者）を養成しました。参加者の皆さんと考えたり、助言し合ったり意見を出しやすい雰囲気作りに努めます。

ペアレントサポート講座の実施

子育て中のストレスを軽減するための講座です。お子さんとの具体的なかかわり方の講義、グループワークを実施します。

グッドにゅうす

県中学校駅伝大会優勝
全国大会三十五位
野田中学校男子駅伝チーム

平成二十三年十一月十三日、県中学校駅伝大会が熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で行われ、念願の優勝を勝ち取ることができました。その結果、関東大会と全国大会への出場権を獲得しました。

十二月四日の関東駅伝大会では、横浜八景島のコースで、見事五位入賞を果たすことができました。選手それぞれが自分の持てる力を出し切り、チーム全員で襷(たすき)をつないだ結果でした。

十二月十八日、山口県で開催された全国駅伝大会では、アップダウンの激しいクロスカントリーコースでしたが、今まで支えていただいた多くの方々への感謝の気持ちを襷に託し、全国の舞台で堂々と走りきることができました。

選手たちは、大会をとおして大きく成長することができました。

山口県まで駆けつけていただいた木下市長、近藤市議会議長、横田市議会議員、村野教育長を始め多くの皆様へ、この場を借りて御礼を申し上げます。

全国将棋大会四位三名健闘
藤沢小学校　五年
古川君　上野君　恒川君

昨夏の文部科学大臣杯第七回小中学校将棋団体戦(全国大会)において、藤沢小学校五年生の古川太一君、上野大君、恒川泰智君の三人が、全国ベスト四という成果を収めました。

六月二十六日に行われた埼玉県大会で優勝。七月二十八日の東日本大会でも勝ち進み、東日本代表の座を勝ち得ました。

八月十七日に東京で開催された全国大会では、西日本代表の二校と東日本代表の二校とで、日本一の座を争い、三位決定戦に敗れてベスト四となったのです。

次は、大会後の三人の話です。

「今後の目標は、来年(二十四年)の全国大会で、まず一勝すること。特に全国大会の準決勝で敗れた兵庫県のチームに勝ちたいです。」

今後の活躍が期待されます。

全国都道府県中学生相撲選手権大会　準優勝　軽量級
上藤沢中学校　二年
三浦　賢(すぐる)君

昨年の八月七日、国技館で全国四十七都道府県の代表選手が集まる全国都道府県中学生相撲選手権大会が行われました。

三浦君は、埼玉県の軽量級の選手として出場し、決勝戦まで勝ち残りましたが、徳島県の代表選手との決勝戦で惜敗しました。

「日本一まであと一歩というところでした。決勝では、自分の相撲を取りきろうと思いました。負けてしまって、とても悔しかったです。しかし、全国二位は、本当に自分にとっての宝物になりました。」

と、三浦君は振り返っています。

軽量級は、七十五kg未満です。三浦君は、入間市の相撲クラブに所属し、市民体育館で稽古しています。こつこつと努力を重ねてきた成果が現れました。

編集後記

昨春の「東日本大震災」から一年が経ちました。復興に向けて、物心両面での立ち直りの努力が見られました。様々な教訓を生かして、感謝と平常心で「昇り龍」の年としたいものです。全国大会の朗報は素晴らしい先駆けです。